

安全データシート

本記載内容は当社が作成した現時点での入手できた情報・資料を基に作成しています。

含有量や物理的性質、化学的性質、危険性、有害性に関していかなる保証をするものではありません。注意内容は、通常一般的な取扱いにおける事象をもとに、その対象として作成されたものであり、特殊な取扱いや特殊な用法・用途に用いる場合には、専門家に聞くなどして適切な管理・使用をしてください。

1. 化学物質等及び会社情報

製品名：最上部に記載

会社名：抗菌美装株式会社 長野県飯田市中村 1 7 5 8 番地 2

電話：0 2 6 5 - 2 8 - 2 0 0 0

2. 物質の特性

成分及び含有量：ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム 含有量は 99%以上

有効塩素濃度 60%

： その他成分 1%未満

3. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学特性 爆発物：分類対象外

可燃性／引火性ガス：分類対象外

可燃性／引火性エアゾール：分類対象外

支燃性／酸化性ガス：分類対象外

高压ガス：分類対象外

引火性液体：分類対象外

可燃性固体：分類対象外

自己反応性化学品：分類対象外

自然発火性液体：分類対象外

自然発火性固体：分類対象外

水反応可燃性化学品：分類対象外

酸化性液体：分類対象外

酸化性固体：区分 2

有機過酸化物：分類対象外

金属腐蚀性化学品：分類対象外

健康に対する有害性

- 急性毒性（経口）：区分 4
- 急性毒性（経皮）：分類対象外
- 急性毒性（吸入：気体）：分類対象外
- 急性毒性（吸入：蒸気）：分類対象外
- 急性毒性（吸入：粉塵）：分類対象外
- 急性毒性（吸入：ミスト）：分類対象外
- 皮膚腐食性／刺激性：区分 2
- 眼に対する重篤な損傷／眼刺激性：区分 2A
- 呼吸器感作性：分類対象外
- 皮膚感作性：分類対象外
- 生殖細胞変異原性：分類対象外
- 発がん性：分類対象外
- 生殖毒性：分類対象外
- 特定標的毒性：単回暴露：分類対象外
- 特定標的臓器毒性：反復暴露：分類対象外
- 吸引性呼吸器有害性：分類対象外

環境に対する有害性

- 水生環境有害性（急性）：急性区分 1
- 水生環境有害性（慢性）：慢性区分 1
- オゾン層への有害性：分類対象外

GHS ラベル要素

シンボル表示



注意喚起語：危険

危険有害性情報：火災：火災助長のおそれ：酸化性物質

：健康：飲み込むと有害／皮膚刺激／強い眼刺激性

：動物：長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

安全対策

- 1) 熱、火花、裸火、高温のもののような着火元から遠ざけること
- 2) 衣類、可燃物、油脂、水、酸、アルカリ、脱塩素剤（亜硫酸 Na、チオ硫酸 Na）、他の塩素系薬剤（次亜塩素酸 Na、次亜塩素酸 Ca、二酸化塩素）、金属から遠ざけること。
- 3) 可燃物と混合を回避するために予防策を講じること。
- 4) 保護手袋、保護眼鏡、保護面、その他保護衣を着用すること。
- 5) 取扱後は手や眼をよく洗うこと。
- 6) 取り扱い時に飲食、喫煙をしないこと。
- 7) 環境へ放出しないこと。

応急措置

- 1) 火災の場合：多量の注水により消火すること。一般粉末消火剤は使用しない。
- 2) 飲み込んだ場合：口をすすぐ。気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 3) 皮膚付着の場合：多量の水と石けんで洗う。刺激があるときは、医師の手当てを受ける。
- 4) 眼に入った場合：数分程度水ですすぐ。コンタクトは外す。その後も洗浄を続ける。刺激があるときは医師の手当てを受ける。
- 5) 吸入した場合：新鮮な空気の場所で、安静に休息させる。気分が悪いときは医師の手当てを受ける。
- 6) 漏出物は回収すること。

保管

：保管期限を守ること。保管期限を過ぎた場合には適切に廃棄すること。

廃棄

：内容物および容器等は、都道府県市町村の法令規則に沿って廃棄すること。

4. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：化学物質

化学名：ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム

CAS 番号：2893-78-9 化学式：C₃ Cl₂ N₃ O₃ Na 濃度 99%以上

化審法番号：5-1043 安衛法番号：なし

5. 応急処置

皮膚に付着した場合：多量の水と石けんで洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合には医師の手当てを受ける。

汚染された衣類を再利用するときは洗濯をすること。

眼に入った場合：直ちに水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。眼の刺激が続く場合は医師の手当てを受ける。

吸入した場合：新鮮な空気の場合に被災者を移動させ、安静に横向きに寝かせる。気分が悪い場合は、医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合：口をすすぐ。気分が悪い場合は医師の手当てを受ける。無理に吐かせない。

医師への伝達事項：本データシート情報。

6. 火災時の措置

使用する消火剤：大量の水

不適な消火剤：一般粉末消火剤

効果の無い消火剤：二酸化炭素消火剤、ハロゲン化物消火剤

特定危険有害性：塩素、塩化水素、三塩化窒素、酸化窒素、一酸化炭素、二酸化炭素、窒素のガスを発生させる

消火を行う者の保護具：空気呼吸器、保護手袋、保護眼鏡、化学用保護具、ホースマスク

7. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：適切な保護具を用い、皮膚接触、眼接触、吸込みを防止する。

：区画するなど関係者以外の立入りを禁じ、遠ざける

：密閉空間の換気を行い高濃度での暴露を避ける。換気先も注意する。

環境に対する注意事項：環境への放出をしないこと。

：河川への流出をさけること。

漏洩物の除去方法：ホウキなどでかき集め、完全密閉しない肉厚のプラスチック容器に入れ、水気のかからない屋外で一時保管し、専門業者に廃棄を依頼する。

：中和等処理の専門家に依頼する。専門の廃棄物処理業者に依頼する。

二次災害の防止策：回収した漏出物や水濡れした漏出物は「廃棄上の注意」を参照する。

：漏洩物と可燃物を隔離する。容器内に水を入れない。

8. 取り扱い及び保管上の注意

忌避する条件：高温、多湿、火気、水、酸、アルカリ、脱塩素剤（亜硫酸 Na、チオ硫酸 Na）、他の塩素系薬剤（次亜塩素酸 Na、次亜塩素酸 Ca、二酸化塩素）、金属から遠ざけること
技術的対策：局所排気装置、全体換気装置を備えた場所で行う。

：適切な保護具（手袋、マスク、着衣）を使用する。
：不安定な場所で行わないこと、保管しないこと。

保管：容器を密閉し、水や熱、直射日光を避け、風通しの良い冷暗所に保管する。
：上記の「忌避する条件」を備えること。
：保管条件により容器が破損し、中身やガス等が漏洩することがある。肉厚の樹脂等の保管容器に適切に移し替えるか、こまめに容器を見て、腐食漏洩なきことを確認する。
：ポリエチレン（PE）、ペット樹脂（PET）、ポリプロピレン（PP）などの樹脂保管容器が望ましい。条件によるが、樹脂といえど5年以上の長期保管には適さない。
：保管期限内に使い切り、保管期限を過ぎた場合には適切に廃棄する。
：子どもや高齢者等の手の届かないところに保管する。

9. 暴露防止及び保護措置

設備対策：装置を密閉化し、局所排気装置、全体排気装置を用いる。

厚生労働省：管理濃度：設定されていない。

塩素ガスとしては、0.5ppm（1995年3月27日労働省告示第26号）

：許容濃度：設定されていない

塩素ガスとしては、0.5ppm, 1.5mg/m³（2005年日本産業衛生学会）

保護具：保護マスク、保護眼鏡、保護手袋（ゴム・塩化ビニルなどの不浸透性のもの）、保護着（材質を特定しないが長袖、長ズボン、長靴）

10. 物理的及び化学的性質

外観など：白色の顆粒もしくは粉末

臭い：塩素の刺激臭

pH：6～7。1%水溶液（10000ppm）のとき約6.6。0.1%水溶液（1000ppm）のとき約6.4。

沸点：情報無し

融点：融点無し

凝固点：常温で凝固

溶解度：水 100g に対し約 25g 溶解する。（25℃）

引火点：なし

自然発火温度：なし

分解温度：240℃～250℃

酸化性：酸化性を有する。

1 1. 安定性及び反応性

安定性・反応性：乾燥状態では安定している。水に溶解すると次亜塩素酸を生じる。

忌避物質：水、酸、アルカリ、脱塩素剤（亜硫酸 Na、チオ硫酸 Na）、他の塩素系薬剤（次亜塩素酸 Na、次亜塩素酸 Ca、二酸化塩素）、金属。

分解時生成物：塩素、塩化水素、三塩化窒素、酸化窒素、一酸化炭素、二酸化炭素、窒素。

忌避条件：火気、熱、衝撃、摩擦、直射日光、水、湿度

1 2. 有害性情報

急性経口毒性：ラット LD50：1600mg/kg 以上

急性経皮毒性：ラット LD50：5000mg/kg 以上

急性吸入毒性：ラット LC50：12mg/kg 以上

眼刺激性：ウサギ 中程度～重度の刺激性

呼吸器感作性又は皮膚感作性：情報なし

生殖細胞変異原性：情報なし

発がん性：情報なし

生殖毒性：情報なし

特定標的臓器毒性（単回暴露）：情報なし

特定標的臓器毒性（反復暴露）：情報なし

吸引性呼吸器有害性：情報なし

その他の情報：情報なし

1 3. 環境影響情報

生分解性：水中で徐々に分解する。

急性魚毒性：水生生物に有毒である。0.01mg/Lであっても有害である。

生体蓄積性：イソシアヌル酸の蓄積性なし

オゾン層への有害性：情報なし

1 4. 廃棄上の注意

原体および廃液の中和方法：大量の水に溶解し、塩素中和剤（脱塩素剤）により残留塩素を中和する。その後、アルカリ剤で中和し排水する。

直接河川に廃棄したり、土壌に埋めてはならない。

原体および廃液の廃棄方法：都道府県市町村の法令規則に則り、適切に廃棄する。

残容器：都道府県市町村の法令規則に則り、適切に廃棄する。

15. 輸送上の注意

国際規則

国連番号：UN2465

品名：ジクロロイソシアヌル酸塩類

国連分類：クラス 5.1 酸化性物質類酸化性物質

容器等級：II

海洋汚染物質：該当

国内規制

陸上規制情報：非該当

海上規制情報：船舶安全法：該当：酸化性物質

航空規制情報：航空法：該当：酸化性物質

輸送上の注意事項：輸送中の取り扱いには慎重に行い、転倒、落下、損傷、衝撃なきように取扱う。

水濡れ、火気、熱、直射日光を避け、酸、アルカリ、塩素剤、脱塩素剤、油脂、可燃物と接触させない。

16. 適用法令

毒物及び劇物取締法：非該当

消防法：非該当

労働安全衛生法 通知対象物：非該当

化学物質管理促進法：非該当

化学物質排出把握管理促進法：非該当

船舶安全法：酸化性物質（危規則第3条危険物告示別表第1）

航空法：酸化性物質（施行規則第194条危険物告示別表第1）

化審法：優先評価化学物質

17. 記載内容の問い合わせ先

抗菌美装株式会社 TEL 0265-28-2000 FAX 0265-28-2011

引用文献 1. IUCLID 2. BIOWIN 3.OECD SIDS initial assessment report1999 4.AQUIRE2010
5. Ad Hoc Committee,EPA report2003